

令和8年度

事業名 社会教育・生涯学習関係職員等研修会【基礎講座】	
期 日 令和8年6月18日（木）	
参加者 83名	
趣 旨 社会教育・生涯学習関係職員の新任者及び学び直しを希望する者が、生涯学習・社会教育に関する基礎的知識の習得を図り、これからの生涯学習振興・社会教育行政関係職員に求められる役割と多様な主体と連携・協働しながら、業務を推進していく方法や視点を学ぶ。	
活動の様子	
【説明】「社会教育・生涯学習の現状と本研修の趣旨」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 杉 由大	
	社会教育・生涯学習の定義について、教育基本法や社会教育法を基に確認しました。続いて、第4期教育振興基本計画等を踏まえ、社会教育・生涯学習の動向、社会教育・生涯学習関係職員に求められている役割について説明しました。 また、本研修の趣旨について、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の観点から説明しました。 参加者からは、「社会教育と生涯学習について曖昧な認識だったのが、しっかり整理された。」「基本的なことを知れてよかった。」「社会教育・生涯学習の理解が深まった。」といった感想が寄せられました。
【研修1】ミニ講話「イッキに学ぼう！社会教育・生涯学習の基礎知識」	
社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 「市町村と福岡県の関連について」 杉 由大 「公民館の基礎知識」 上野 光裕 「社会教育委員の基礎知識」 上野 大輔 「家庭教育支援の基礎知識」 柴尾 裕夢 「地域と学校の連携・協働の基礎知識」 杉 由大	
	「市町村と福岡県の関連」「公民館」「社会教育委員」「家庭教育支援」「地域と学校の連携・協働」について、各テーマの必要性、現状と課題、県内の実践事例、そして今後求められていることや方向性について、各担当者がミニ講話を行いました。 参加者からは、「事業と行政の関係が理解できた。」「自分の立ち位置がわかり、動きやすくなった。」「生涯学習の中でも特に重要となる部分や大事なこと、役割について知ることができた。」など、社会教育・生涯学習の各分野への理解が深まり、今後の業務への見通しをもつことができたという感想が多く寄せられました。

【研修2】講話・演習「体験しよう！事業で活用できるレクリエーション」

社会教育総合センター体験活動推進班 社会教育主事 東 圭希

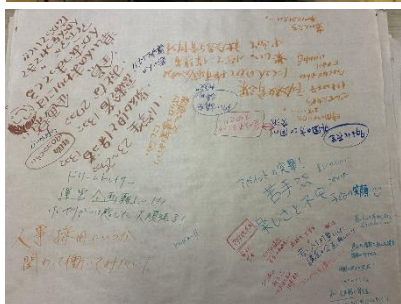


まず、参加者の緊張をほぐし、心理的安全性を高めるために、自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行いました。次に、「青少年の体験活動の基礎知識」をテーマに講話を行い、青少年の体験活動の現状や課題、その内容や効果、必要性について説明しました。さらに、じゃんけんやペットボトルキャップを活用したグループで協力するアイスブレイクを体験し、レクリエーションを進める際の声掛けのポイントについても学んでいただきました。最後に、講話と演習を通して、意図的・計画的な体験活動の大切さを理解していただきました。

参加者からは、「簡単なものですぐできる。心がほぐれた。」「アイデア1つで楽しめることがわかった。」「初対面の参加者同士が打ち解ける過程を実際に体験することができ、学び多い演習だった。」「実践してみてもとても楽しく達成感もあり、チームが短時間で打ち解けることができた。自分の講座でも活用したいと思う。」などレクリエーションの効果に関する感想が多く寄せられました。

【研修3】演習「社教トーク！～聞いて話してつながって～」

社会教育総合センター調査・研修班 社会教育主事 杉 由大



参加者同士が自由に意見交換し、顔の見える関係をつくることと、これからの事業推進に関して、新たなアイデアや気づきを得ることを目的として、「ワールドカフェ」による対話を行いました。参加者は、クラフト紙にグループで出された意見を書き留めたり、繋げたりしながらアイデアの足跡を残しました。レクリエーションによって参加者同士がすでに打ち解けていたこともあり、大変活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「いろいろな自治体の方と交流ができて学びを得られた。」「様々な方と情報を共有することができたので、今後の業務に役立てていきたい。」「ワールドカフェの手法は自分が講座をする上で使いたいと思った。」などの感想が多く寄せられました。

参加者の声

- ・ 新たな情報を知ることができたので勉強になった。
- ・ 年代、職場も異なる方々と交流でき、自分のためになった。
- ・ 日常業務に追われる日々だが、改めて社会教育に触れることができてよかった。
- ・ 明日から情熱をもって仕事しようと思う。